

第九拾参号

風鈴まつり

梅雨の季節になりました。ジメジメした日が続いても、時々風鈴の音色が聞こえてくると、一瞬でも清々しい気持ちになれます。

おとなりの大川内山では、それぞれの窯元の軒先に風鈴が飾ってあり、まるで碗琴まつりのようです。また、ジャンボ風鈴も話題をさらっているようです。

産地でも、お正月の福袋・3月のひいなのみまつり・5月の陶器市に続いて一大イベントにしようと、やきもの産業観光化へ向けてその意気込みが感じられます。

しん窯でも、若い2人の口クロ師がさまざまな形状に挑戦しています。梅雨のうっとうしい気分も、風鈴の音色で打ち消されそうです。



有田のお盆

有田は7月盆です。珍しいねと言われますが、近くは嬉野市、遠くは東京都も同時期にあります。有田の7月盆はいつ頃からなのか調べた事はありませんが、商売と関係があると聞いた事があります。有田焼直売商人さん達は、大正時代から全国津々浦々割烹品や営業用食器を持って販売されています。売っても即集金というわけにはいきません。昔は盆と正月が集金日だったようです。そこで有田は、8月のお盆を集金日に充てて、前倒しで7月のお盆に先祖供養をしたのでしょうか？全てが商売中心で世の中の仕組みができていたような感じがします。おやじが他界して5年、もう来年は7回忌を迎えます。お盆が近くなると、人間のつながりや存在についてしみじみとももの思いにふけています。「後世に残るやきものをつくる」、もう一度しっかりかみしめたいと思っています。

「有田皿山遠景」に寄せて

有田歴史民俗資料館からこのほど「有田皿山遠景」が発刊されました。有田の語り部池田忠一さんと元館長森田一雄さんの労作です。私達やきもの産業に携わっている人達への応援歌であり、教科書です。しん窯三代目梶原友太郎（当主茂弘は七代目）や曾祖母梶原サダの人となり随所に行間から読み取れます。私に対する、窯元の当主としておやじとしてかくあるべし、という教訓にもとれました。是非有田焼ファンややきものファンの皆さまに読んでいただきたい、おすすめの書です。

参院選近づく

国の大事な舵取りを占う参議院議員選挙が近づいています。

国会延長で、来月22日から29日へ変更されました。すでに続々とミニ集会が開かれています。しかし一方的な独演会が多く、少ししらけ気味です。豊かな国があって元気な九州があり、佐賀県があります。そして有田の中のしん窯へと連なっていきます。国家の繁栄なくして有田、いや、しん窯の繁栄はありえません。しかし現実には自分の事しか考えられないような寂しい悲しい人間になり下がってはいないだろうかと思省を促しているところです。自由主義・資本主義に格差はつきものです。しかし努力は報われる社会を築かなければ、国民の志気は低下してしまいます。

やきもの離れが急速に進んでいく中であって、将来の有田への夢を失っている若者が増えている事も事実です。私達大人が400年の伝統をくいつぶしてしまった責任は甚大です。国の将来像を本気で考える人を探して、私達の夢を託してみたいと思います。

伝統文化を重んじる教育。日本人としての誇りと自信。心の豊かさが定着すれば、再び有田の出番はあると信じています。

職人さんのひとりごと

～ 第9回・松尾龍成さん～

入社して7年目になります。現在すじ引きという仕事をしています。

「すじ」とは、器の淵や高台を一周まわっている線の事です。入社するまで「すじ」の事は全く知りませんでした。

やはり最初は形と絵柄に目がいきます。その位、すじは主張しない方が良いと思います。皆さん、お持ちの器の「すじ」も見て下さい。そこにも、手仕事の味わいがあるのです。

